

地図や資料から読み取る昔の開発

名前

学習日

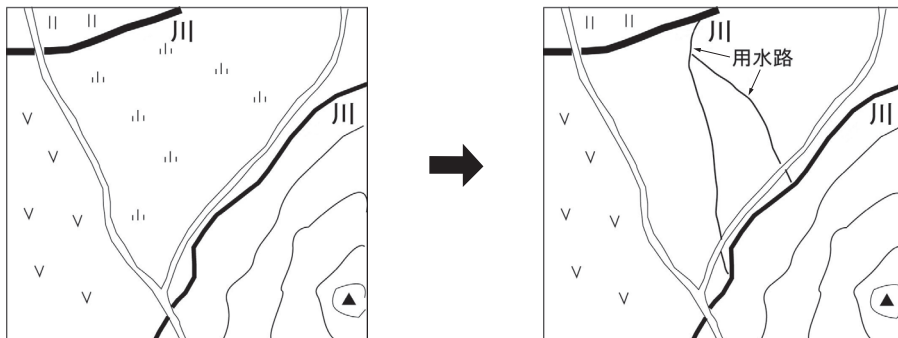
ポイント

- ① 昔、米をたくさんつくるため、多くのところで土地が切り開かれ、用水路がつくられた。
- ② 水害を防ぐためにいぼう工事も行われたが、今のようないぼう機械がなく、たいへんな苦労があった。
- ③ 開発にはさまざまなふうがなされ、今もそのまま残り、利用されているところもある。

きほん問題



次の地図は、昔行われた、用水路の開発の様子を表しています。これを見て、あとの問いに答えなさい。



- (1) 用水路が2つに分かれて引かれていますが、その理由としてもっとも考えられるものをア～ウから1つ選び、記号で答えなさい。

ア 用水路があふれるのをふせぐため。

イ 大きな岩がじゃまをして、2つに分けなければならなかった。

ウ 水を広く行きわたらせるため。

- (2) 開発のあと、土地の利用はどのようなになったと考えられますか。正しいものを、ア～ウの地図から1つ選び、記号で答えなさい。

アの地図



イの地図



ウの地図



地図や資料から読み取る昔の開発

名前

学習日

チャレンジ問題

次の年表と図を見て、あとの問いに答えなさい。

1629年	伊奈忠治により、芝川をせきとめるためのハ丁づつみが築かれ、見沼ため井がつくられた。
1725年	幕府より井沢弥惣兵衛に対して、見沼ため井を田に変える検討が命じられる。そのための農業用水として見沼代用水を作ることになり、水を利根川から引くことになった。
1726年	普請役の保田太左衛門により測量が始まる。
1727年	9月、見沼代用水の工事開始。
1728年	2月、見沼代用水が完成。
1731年	井沢弥惣兵衛により、東西2本にわかれた見沼代用水と芝川を結ぶ見沼つうせんぼりがつくられ、見沼代用水を水路として、船で江戸まで米などを運ぶことができるようになった。

図1



図2





- (1) ア～オのうち、正しいものはどれですか。2つ選んで、記号で答えなさい。
- ア 見沼ため井は、見沼代用水をせき止めてつくった。
- イ 1728年、見沼代用水がつくられたとき、まだ見沼代用水は江戸まで水路でつながっていなかった。
- ウ 見沼ため井につくられた田は、見沼代用水の水を利用した。
- エ 見沼代用水は、工事から完成まで3年以上かかった。
- オ 見沼代用水の水は、利根川へ流している。

- (2) 見沼つうせんぼりは、図2のなかのア～ウのどれですか。1つ選んで、記号で答えなさい。

- (3) 図2のなかの①～③のうち、図1にえがかれた見沼ため井にあたるものは、どれですか。1つ選んで、記号で答えなさい。



地図や資料から読み取る昔の開発

【きほん問題】

かい答	アドバイス
<div></div> <div>(1) ウ (2) イ</div>	<div></div> <div>荒れ地を示す地図の記号から，用水路がつくられる前，そこは，まだなにも利用されていない土地だったことがわかります。ここに用水路を通して，その土地を田に変えようとしたわけです。田に水をうまく行きわたらせるため，用水路を2本に分けたのです。</div>

地図や資料から読み取る昔の開発

【チャレンジ問題】

かい 答	ア ド バ イ ス
<div></div> <div>(1) イ ウ (2) ウ (3) ②</div>	<div></div> <div>見沼代用水は、埼玉県にあった見沼ため井を田に変え、そこに水を引くためにつくった用水路です。見沼ため井の土地はとても広かったので、利根川からの水を途中で、東と西の2本に分け（図2のアのところ）、田に水を引きやすくしました。この大工事をたった半年で完成させ、今もところどころ昔のすがたのまま流れていることを考えると、昔の人の技術の高さと苦勞が思いおこされます。</div>